

# チェックリストに基づいた対策の効果

被害の大きい地域を防除対策のモデル地区に設定し、地区単位で防除に取り組みました。

## <対策の内容>

○地区共通の防除スケジュールを作成し、徹底的な防除を実施

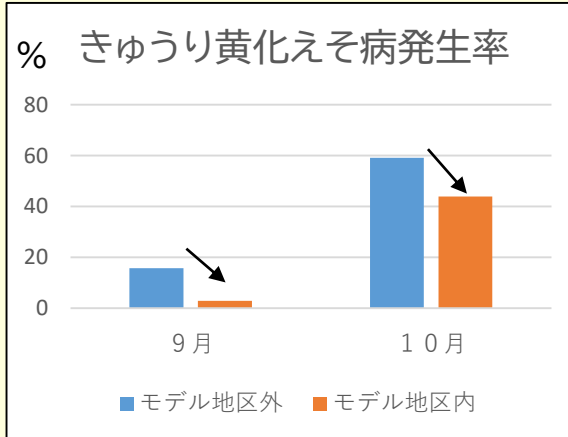
○ハウスの入口に0.4mm目合いの白色ネット、サイドに0.6mm目合いの赤色ネットを設置

○栽培前後の施設閉め切りの実施（栽培前は太陽熱消毒を実施）

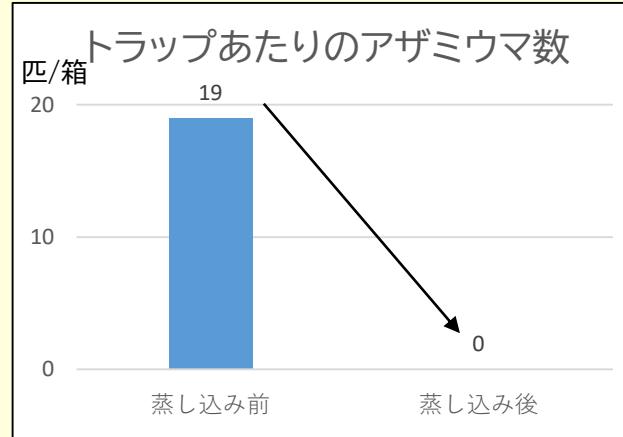
地区共通の防除スケジュール

定植時	アベイル粒剤
定植後1日目	グレーシア乳剤
6日目	アフーム乳剤
11日目	コテツフロアブル ベストガード水溶剤
~	
9月上旬	モベントフロアブル ディアナSC

## <対策の結果>



ほ場あたりのMYSV発生率の平均  
(1ほ場あたり50株調査)



きゅうり栽培後の閉め切り前後で  
アザミウマの捕獲トラップを設置し調査

地域単位での総合的な防除により、生育初期のMYSVの発生率が大幅に抑えられた。

また、作後のハウスを閉め切ることで、次作に持ち越されるアザミウマを減らすことができた。

問い合わせ先:

○大阪府環境農林水産部 南河内農と緑の総合事務所 農の普及課(発行者)

TEL:0721-25-1131(内線270)

E-mail:minamikawachinotomidori-g04@sbox.pref.osaka.lg.jp

○大阪南農業協同組合 営農指導課 TEL:0721-80-3386

監修:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

令和5年7月発行

# きゅうり黄化えそ病の防除について



(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所提供

大阪府南河内農と緑の総合事務所

大阪南農業協同組合営農指導課

(監修:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所  
大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ)

# どんな病気？

○メロン黄化えそウイルス(MYSV)が原因

○葉では、葉脈透過、モザイク症状、えそ斑点、成長点付近でモザイク症状が見られる。果実では奇形や斑紋が生じる。

○症状が進むと枯死する。



果実の奇形



えそ斑点※

# 伝染経路は？

○本ウイルスは、ミナミキイロアザミウマ(以下、アザミウマ)によって媒介される。

○アザミウマは幼虫時にウイルスに感染した植物を吸汁することで保毒し、生涯にわたり伝搬するが経卵伝染はしない。



ミナミキイロアザミウマ※

○土壌伝染、種子伝染はしない。

○管理作業で伝染する可能性は低い。

# 他の作物にうつる？

○すいか、にがうりなどウリ科作物の他、多くの雑草にも感染する。

○MYSVの感染が確認されており、富田林市のほ場周辺で見られた雑草

- ・オランダミミナグサ(ナデシコ科)
- ・ナズナ(アブラナ科)
- ・カタバミ(カタバミ科)
- ・ノゲシ(キク科)
- ・ホトケノザ(シソ科)など



オランダミミナグサ

# この病気でどれくらい損をする？

所得が3割に

発病しなかった場合

売上:176万円  
所得:50万円  
※2017年大阪府経営指標参照

(10a換算)

発病した場合

売上:130万円  
所得:14万円  
※JA出荷量・農家への聞き取りから被害額を推定



※の写真は(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所提供

# 防除はどうしたらいい？

個人だけでなく、地域でアザミウマの防除に取り組むことが重要

## 個人で行う対策

- 施設側窓、入口に目合い0.4mm以下の白色ネットか0.8mm以下の赤色のネットを設置
- 罹病株は根も含めて・ほ場外へ持ち出し
- 定期的なほ場内の雑草を除草
- 「定植～定植後1週間」「9月上旬」など感染防止に重要な時期の重点的防除
- きゅうり栽培前および栽培終了後に10日間以上の施設の閉め切り(アザミウマのえさとなる雑草や残渣を無くし、餓死させる)



## 地域で行う対策

- 地域での一斉防除期間(例:9月上旬頃)を設定し、その期間内に全生産者が同じ殺虫剤を散布(地域全体のアザミウマの密度を下げつつ、薬剤抵抗性の発達を防ぐ)
- 地域の共同作業として、ほ場周辺の除草を定期的を実施(アザミウマの生育場所を無くし、雑草へのウイルスの感染を防ぐ)



チェック項目を確認し、自身の防除について振り返りましょう!

## 防除スケジュール

	7月	8月	9月	10・11月	12月
	なす栽培終了	きゅうり定植			きゅうり栽培終了
作業内容	施設閉め切り	定植時・後の重点防除(定植～7日間、9月上旬)			施設閉め切り
	ほ場周辺・地域での除草 施設側窓・入口のネット設置 罹病株の抜根				

※きゅうり栽培時だけでなく、なす栽培時もアザミウマ対策に取り組むことがアザミウマの発生数を減らすことにつながります。